

### もっと島牧を知ろう展 2008「島牧村のブナ林へようこそ」への参加報告

#### 1. はじめに

10月12日(日)道南の島牧村で開催された「もっと島牧を知ろう展2008」の行事の内、島牧村千走の林道沿いに広がるブナ林の見学会に研究会から板垣技術士と私(今井)が参加しました。集合は島牧村の道の駅「よつげ島牧」(今回のイベントの主会場で、地元で取れたネギや大根などの野菜及び茸類などの農産物の直販が主体)に10時に集合し、その後千走温泉を経由して町道を車で10分程度登ったところで下車し、そこから町道を徒歩で下りながらブナ林、ミズナラ等の森林を見学しました。見学者は島牧村村長をはじめとした地元の方々、後志森林管理署の職員、そして、一般参加者は札幌、江差、函館からの参加者もいて総勢30数名の参加でした。

#### 2. 島牧村のブナ林について(概要)

島牧村は、西に道南最高峰「狩場山」、中央に「太平山」を擁し、清らかな溪流に恵まれ、海岸線には幾多の奇岩が点在している。村内には日本の滝百選に選ばれた「飛竜賀老の滝」(高さ70m、幅35m)を始め、広大な面積を有する「北限地帯のブナ原生林」が広がります。狩場山、太平山などには、高山植物の花畑が広がり、学術的に貴重な特産種も数多く確認されています。

##### 森林面積とブナ林

島牧村の森林面積は41,000ha、そのうち国有林は約80%を占めています。村内の森林比率は93%にも及びますが、今年サミットが行われた洞爺湖町は45%であり島牧村は後志・胆振管内では最上位であり森林大国といえます。

賀老高原には狩場山山麓に広がっている「賀老ブナ林」があり、その面積は10,000ha以上で日本最大級のブナ林と一般的に言われています。

【ブナの黄葉は、例年10月10日頃が見ごろになります】

#### 森林の樹種分布

森林の樹種分布は、ダケカンバ林は標高の高いところに位置し、その下部にブナ林が出現する。ブナ林と混交する主なものは、ミズナラ、センノキ、エゾイタヤ、シナノキ、ハウノキ、ウダイカンバ、コシアブラなどである。一般的に林床はチシマザサが優先し、その上にオオカメノキが生育する二層をなしていることもある。

また、文献では狩場山登山路付近の観察で、純林状をなすダケカンバ林とブナ純林との線を描いた様な明瞭な接触が見られたと報告されている。

(以上の島牧村のブナ林の概況は、後志森林管理署黒松内森林事務所 松本首席森林官の案内文からの引用)



見学会の参加コース「黒松内森林事務所提供」

### 3. ブナ林見学の様子

今回のブナ林見学コースは、島牧村の千走温泉からすぐ上の国有林で、その中に簡易舗装された町道を車で約1.5 kmほど(比高約100 m程度)登ったところで車を降り、そこから徒歩で道の両側に広がるブナ林をゆっくりと見学しながら町道を下って千走温泉までもどるものでした。

時間は約2時間程度の散策でした。

途中のポイント地点では、数10 m近く林の中に入って、代表的なブナの巨木まで近寄り、幹の径を測ったり、幹に耳を付け樹木からの音に耳をそばだてたりと(グラビアの島牧村の代表的ブナの巨木参照)。そして、ネットによるブナの種子採取している木ではネットに落ちている種を確認したり、直接ブナに触れあうことが出来、参加者の方達は皆楽しい一時を過ごすことが出来ました。

また、その間ミズナラ巨木(胸高直径 120 cm)やブナ大径木(胸高直径 80 cm)ブナの枝が大空へ放射状に伸びそして扇状に広がっている様などが見られ近くで木と触れあうことの楽しさを教えてくれる見学会でした。

残念ながらヤマゲラ等の鳥たちとは出会えませんが、秋の半日、紅葉しかけたヤマモミジやイタドリ、ヤマブドウの蔓や栃のみ、ハウノ木等多くの木々とのふれ合いは、大変充足した時間を過ごすことが出来ました。



紅葉しかけている山モミジ



ネットによるブナの種子採取

### 4. まとめ

今回の見学会の参加は、地域産業研究会では試験的ケースとして実行しました。本見学会の場所は、お年寄りから子供や幼児まで誰でも気軽に、また、車いすでの参加も可能であるなど容易に「森林にふれあう大変素晴らしい機会」を得られるものであります。

今後もこのようなイベントについて、会員に参加を呼びかけていきたいと思っております。

最後に、今回の見学会では、後志森林管理署 黒松内森林事務所 首席森林官の松本誠さんには大変お世話になりました。

ここで改めて謝意を述べたいと思っております。

(文責：地域産業研究会 今井 淳一)